

## 報 告 書

<p>調査・研究 テーマ</p>	<p>決算について</p>
<p>目 的</p>	<p>2022年度決算の審査における留意点など話を伺い、決算特別委員会をはじめ、今後の会派の取り組みにおいて活用するため</p>
<p>内 容</p>	<p>日 時：2023年9月8日（金）14：00～16：30          会 場：さいたま市議会                    立憲民主・無所属の会さいたま市議団控室          テーマ：「さいたま市2022年度決算を読む」          講 師：地方自治総合研究所研究員 菅原 敏夫 氏          参加者：高柳 俊哉、西山 幸代、佐伯 加寿美、出雲 圭子、                    松本 翔、佐々木 郷美、堤 日出喜、相川 綾香、                    永井 里菜          報告書作成者：永井 里菜</p>
<p>概 要</p>	<p>(1)決算や財政の基礎知識について          (2)さいたま市の決算審査について⇒決算カードや検収調書・監査委員の意見書など参照する必要          (3)決算見込、地方税収と国税収入について⇒日本全体の動向との比較          &lt;別途資料参照&gt;</p> 
<p>所 見</p>	<p>コロナ禍の影響でさいたま市の税収や国・県の税収は下がっていると見られがちである。しかし事実ベースでみれば、さいたま市も埼玉県も前年度と比べ増収であり、史上2番目の規模であることは重要である。</p>

<p>所 見</p>	<p>決算にあたっては、こうした点を踏まえて、安定した市民生活の為に、この税収増がどう生かされていたのか、どのように生かした政策が執行されていたのかに焦点を当てて審査に臨むことが必要である。</p> <p>政令市さいたま市の財政は、中長期的には歳入面で人口増加等による市税収入の増加が見込まれる一方、歳出面では、急速に進む高齢化対策や公共施設の老朽化対策等の多くの財政需要を抱えていることから将来にわたって持続的な成長を維持していくためには、限りある経営資源を「選択と集中」の視点で重点配分しながら、柔軟かつ効果的・効率的な都市経営を推進していくことが重要であり、市民、企業、団体、大学等の様々な関係者と連携・協働していくことが不可欠である。</p> <p>特にDXを推進することで、行政サービスについて市民の利便性を向上させるとともに業務効率化を図り、人的資源を行政サービスの更なる向上に繋げていくように、先入観に捉われない新たな発想が必要と感じた。</p> <p>市民一人ひとりが幸せを実感できる都市の実現に向けて、会派として、今後の委員会や本会議での取り組みに生かしていきたい。</p>
<p>会派基本方針</p>	<p>「市民と共に明日を創る」 全般に係る取り組み</p>